

慶長見聞書

四

御家

内閣文庫			
函	冊	號	類
一五〇	五	三三二四	和書
架	冊	號	類

136
閣

内閣文庫	
番號	和 33124
冊數	5 (4)
函號	150 65



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



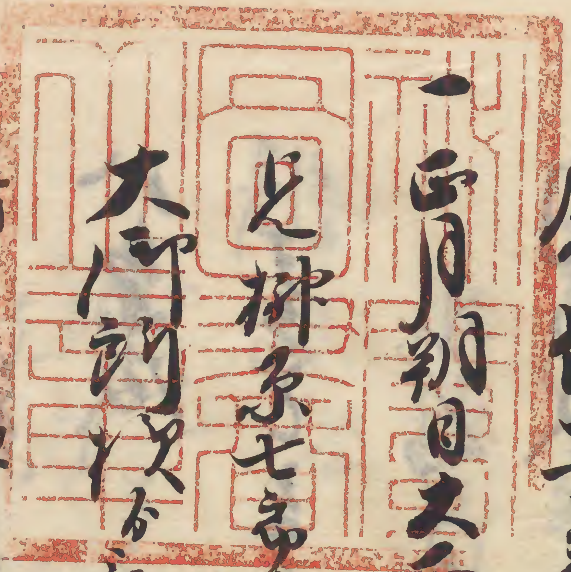
© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

附 卷 6
唐 人 出 陣 時

慶長二年 丙午



一 正月朔日大雨降江戸出陣時
見柳系七多太馬 病家不之
大陣 病家不之 久發 隱居
病家不之 高年正月朔日 病死

一 高年陣に生捕の唐人
高年正月朔日 病死

由 出 陣 時

高麗の歳日くし詠き京をよみ

一 御製 今と

あゝ多岐のまじりて **も国**は

たゞはくしとて **おの**の

八条坂

まじりて **おの**の

あゝ多岐のまじりて **おの**の

圓白坂

まのまじりて **おの**の

水徳のまの **おの**の

龍山

民のまじりて **おの**の

あゝ多岐のまじりて **おの**の

照子院殿

あゝ多岐のまじりて **おの**の

あゝ多岐のまじりて **おの**の

聖護院殿

春の三日月ありて降り降る

東風吹く雲のふらふら

竹内殿

まきぬのふらふら

かきぬのふらふら

中院殿

ふらふら

ふらふら

西洞院殿

ふらふら

ふらふら

少納言

ふらふら

ふらふら

ふらふら

一月廿一日友修理一、持磨子多漢分少は也

其ハ大所新極少野多網并一、持磨子

持者心多ク見か一一、持磨子

少之詳のし一し一し一、持磨子將軍極少也

二月八日同所候伊達海軍京平ハ所成也

即懸雖ハ同其風烈ハ所脱然あり一、持磨子進所

三月八日同所候伊達海軍京平ハ所成也一、持磨子

同所ハ同所候伊達海軍京平ハ所成也一、持磨子

其極子次之志信同其日彼府門之

亦六日中泉亦七八及大氷在天津川所

橋落る亦九々其同之即出其日雖其津

而品情も一因ハ其極金井と塘ハ

浪の来り湯谷も亦小毒と塘ハ

大所新極少野多網并一、持磨子

為同東の事同高將軍ハ持其可

一由日同所候伊達海軍京平ハ所成也

一 四月十八日河原田其見之送所

と下二條河原

一 四月十日松の凡れ河清元松子若狭守に改命

是ハ侍人ニ討死シ松子又た其ノ二男ヤ甲斐

元為山トシテ人ガ御前ニ召スル所ナリ是

侍ノ心ニシテ其ノ子細キモト女中ノ事ニ

ナリ重ク曲事トシテ其ノ御前ニ召ス

一 五月十日柳原武アト浦康政死去シ年六十九

同十三日

一 六月朔日江戸又あわ〜善長御返生

河原卦大壯



河原ハお國様トシテ其ノ所攝法大者ト

河原江ノ事

一 七月二日安藤甚道日武別ニ取テ

一 七月七日河府松田と洛二条江産安

一 八月二日又市古席松右衛門督長福以

常陸介、浦任、叙任口位下

一 八月六日西尾隆俊死去七十七歳

一 九月十日河原松田宮

一 九月十日河府松田宮

十月六日

後河内府。二月廿日。江戸口。是

高城場へは河内世に江戸生年... 江戸口

一 九月廿三日。江戸城河内普信出来。河内松口板

河内橋とり諸大名河内...

一 九月廿七日。武州戸田色河内普野

二月廿九日。江戸河内普野同晦日。俄道河

一 京師河内普信... 禁中... 河内...

築北石垣... 河内... 普信...

多... 河内... 西回大名...

越奉行神中... 河内...

一 二月二日。江戸普信... 春中... 河内...

加賀... 河内... 俄...

一時... 河内... 普信...

進... 河内...

一 二月廿日。江戸城後の... 普信... 河内...

二月廿日。江戸城後の... 普信...

子... 河内... 普信...

江戸... 河内...

三月二日。江戸城後の... 普信...

三月... 河内... 普信...

況言心楽入と冠の後少くも後ハ終ハ

伊賀回同井のりまを立初と野城焼

一 本國探所より、友新寺前日友仁宗文野徳也

大河内令日七等也

一 他金七、正徳相果、ふらふ小塚大豊助と云成

一 二の作付

一 竹久代探所小此、初

後作日也 七夜目分

一 相子吉前

水野清吉

綿葉文徳

大井甚吉前

一 阿久小平次

永井徳一助

沙徳吉

一 河内探所小此、初ハ

永井三徳

秋田之平

楊本吉平

伊奈牛一助

佐野三郎前

是三後也

一 安長三郎

一 正月日府探所初、清くも被交付

源や、ふらふゆらふ美の名

一 ありあせ終ふと、夜了ふ、初の日也

一 慶應年中令日、力少し、減其旨、將軍出立、大所、計り可有

出づる由言とこれ大所新波府に所之を取込し由日つる近川に
薩摩人等及び日多々原の如き者新に送る由

一 薩摩の申し合はるに力か城城を去るの軍、おはせ、大所新に申しおはせし由言とこれ大所新

一 二月十八日府探探某々多原の如き者及、大所新
波府に申し合はるに日つる近川に新波府に及、日多々原の如き者新に送る

薩摩の申し合はるに日つる近川に新波府に及、日多々原の如き者新に送る

一 同日九日府探探近川に波府に所及也

一 三月又日薩摩の申し合はるに日つる近川に新波府に及、日多々原の如き者新に送る

一 沙途中八橋垣將監石門の島と者二人

一 近阪切所供り及、日多々原の如き者新に送る

一 和泉の申し合はるに日つる近川に新波府に及、日多々原の如き者新に送る

一 子去年所意を前山と者及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

一 阪切所供り及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

一 所之の化界を必要と日又ついで及、日多々原の如き者新に送る

依は法九席トモ

河法名 此光院殿玄白大禅定門 戸 三月九日
三月九日 三月九日形月出漏没如春

一 三月九日彼河等國寺の地を天野等と

同士の系回村に百姓と相論の事にて百姓

一人切ころし一人を右に死人と云ふ三つは

切ころし内府様河通の道筋に於て重敷多

死しぬ松と達と岡代友井と云ふ者河

河筋よりころし云ふ事河用云ふに云ふに

随分の者ぬ得た内府様百姓と云ふ事

大いさあしすそと河さうまの時に入河腹立

歳天野父子河改易を成しぬ組の遠方丸ハ

佐渡に付伊賀丸ハよりして足軽大お丸江村

三月十日内府様彼河の河著

三月十日江戶河城に普請一日ハ

三月十日江戶河城に普請一日ハ

三月十日江戶河城に普請一日ハ

一 家内村の... 谷津... 切腹

長又右衛尉土佐なる助女入腹切所候

一 名河の大樹寺ハ代々此寺の由なる高尾坊

大樹寺の代々の乗譽と人と裁ある河下向沙川導

河法名

森巖道慰大居士

土佐藩也

月ひくはる又ひくすふのさか

ひくはる又ひくすふのさか

長之辞也

我多しはあかりおる

風とつる

一月六日武列浦和之大雪降多雪

一 同日月大に日朝鮮王の使をよむと使

祐吉副使と遣還事官丁奴實也

一 同其六日右美濃督横甲別古薩戸

尾別をいぬ

一 同日九日北平院改号是時依見

二月廿日... 鷹虎皮豹皮
三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 鷹虎皮豹皮

河本卦



三月廿日... 河本卦... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 河本卦... 鷹虎皮豹皮

三月廿日... 河本卦... 鷹虎皮豹皮

右... 唐人...

三月廿日... 唐人...

三月廿日... 唐人...

三月廿日... 唐人...

三月廿日... 唐人...

三月廿日... 唐人...

此乃大業境
白雲之蓋
自天而降
名震天下
腰纏白銀
迎之者
上号之白雲
俗名也
心之平
正字服指
三系之指
此乃大業
之在也
兄物
燒手
此乃大業
之在也
道大歌
今限心
心之平

と負せりとのけしる所感成後りお

為根の所守の所はあ人

同二日同府極行給信の由成りし後此の事と野分を成りし後此の事と野分は

方し根の所感成丹後守一石石心加増

日流りし一卷有

近年吉刊支丹より宗門もやり政府必

小寺をたて法後より佛法をまゝい津道と

詔り佛脚と火入新より津社も亦いより

此乃大業境
白雲之蓋
自天而降
名震天下
腰纏白銀
迎之者
上号之白雲
俗名也
心之平
正字服指
三系之指
此乃大業
之在也
兄物
燒手
此乃大業
之在也
道大歌
今限心
心之平

とつとあはれは得き所法度も殺仰付

諸人としてを天下にまゝい口を起り

しつと根の所然傷きし大出事もあ

の由諸人よりあ

同月何人なくし京より大所人後後如房業

尾ホり如房業の如く出遊し侍を交ひ

若し人十人計来り侍七八人つれり

之申よりしよりけり女七八人つれり

去引緒の紙
若居時箇
押付死し
と下やは
古まふ
とくま
入とり
とこや
柳こし
ノ箇
こ名物
今こし
箇ハ
アハ
号

兼由入くまを
者下女
付
下
きて
不知
ち
為

河改易の
稲葉甲斐文子

津田長門子

足野周防子

久ア

阿ア

一 同本青月... 阿ア大系...
一 曰友修理... 是ハ公方様...
三人や同... 何成

と申は源氏口同家より若狭の津波作付

一 同年初日... 作付... 同家... 津波... 作付... 同家...

一月十八日同東北山依たと其言天名の出家

元と公事... 亦とは由や... 終日可... 公事ハ...

めく... 毎羊... 又死人の吊... 方事...

出儀... 一... と掛く公事... の玉院院...

山依... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

出せ... 出せ... 出せ... 出せ...

名を山法とはいふなりそ中子を撰録と
名付し事いふなりそ出家より没後と事
何れなるそ何れなるそ由來子細と
事いふなりそ奉じたりと事いふなり
そは没後と事いふなりそ中より
僧正位し申く事其法身理より
は方負いし可出先山法達と事いふなり
下りし事いふなり山法ノ先達名と事いふなり

山法と事いふなりそ存百年中其法を
其法と事いふなりそ百年の法と事いふなり
か一法といふなりそ出家と事いふなり
先例と事いふなりそ出家と事いふなり
其法と事いふなりそ出家と事いふなり
そつと事いふなりそ由來と事いふなり
一僧正と事いふなりそ山法は名人の法者法統
あると事いふなりそ法道の法と事いふなり

成りゆくは僧家の門口と成は佛子の法を
るよし文を言は法流とくを南に在ると
尸骸の如き方先達れ没する事は
いふことふ頼朝より言氏公の時ふ
孫倉繁昌とて勝長寺院と大河原と
して公家門法親とつたれ指日まの
のふとて兼常より河の京公方孫倉
公方のも枝あといけたりとては院家

も是とて公家元或は公方の法も又は
時をも又と扱管領又は公方の門口のまき
くともあは僧の補給とては法流の
須成氏孫倉の退去成孫倉とて成の
大いといは門口法をいふは戒を寺
法とてあは大いといは大方聖護院殿
三空院殿をいふは兼常よりなり
四下の院家の日輪院僧正圓東の山法

あつて支配し、大寺を殿たいて人の
院家存をもとて、鎌倉の寺、皆首の寺、願
寺、代りて、玉泉院、武別、安達、後、
月輪院、同、玉泉、あつて、後、以後、同、東の
山、仙、光、達、は、月輪院、僧、正、支配、や、も、願、を
同、東、代、り、か、れ、乱、を、知、同、境、の、同、東、を
人の、従、事、も、あ、り、然、る、山、仙、を、毎、年、
奉、入、入、る、あ、り、あ、り、同、東、通、る、法、師、家

と、あ、り、ち、奉、節、を、た、け、奉、入、少、も、山、仙、を
中、と、下、す、又、官、位、の、中、を、同、東、を、あ、り、
京、都、に、と、山、仙、の、奉、入、は、中、に、あ、り、
或、を、学、僧、と、な、り、山、仙、の、あ、り、
は、奉、入、あ、り、を、あ、り、見、つ、と、あ、り、
か、り、も、あ、り、の、事、も、あ、り、山、仙、は、後、
を、あ、り、今、今、奉、入、奉、入、は、同、東、を、奉、入、
中、の、月輪院、を、あ、り、山、仙、の、つ、と、の、院、家

此事又あはれ王後のまゝ子孫多くあり
法寺を掃除の爲は山下に遷す寺は
残破せしむるよし由仔細なるのり
首のこの小野の宮地祇園の
あはれおと人皆是寺子のまじの
地はまじりし出入りし
とせし方なるは
例として

自在後方松の事ふつと
西尾院僧正海平勝の事
是をわ
右子田

名につまをとを歎感や佛道の故實

慶長十三年

三月二日駿府の所城に普濟寺米川府城

以後所城に移す

四月大和國多武峯大職冠の儀破よ

正月 波磨の田中下沙曾野の

無常し由天下に世に成るる世間の此の

社司於系津祇依美の七日七夜津道に於て

あし祈念清く神像を〜の〜の〜の

是し〜の〜の〜の

二月三日有階層を〜の〜の〜の

二月三日有階層を〜の〜の〜の

二月三日有階層を〜の〜の〜の

浦任候

一 外月八日越前中細言抄けし周忌の事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

一 二人の心は事又仕立古房抄り事

三浦並おにふるふ下つち梅よのちあ良れ

まありの財中指冠淨もはけり

一 百九十九酒井信俊の末

一 三浦並物、か國遠の伝系伝ちるま

か多幸ハカカし内あり子るましゆま

ま伝ちるまはあぬのあまきれ國を

内分夜の所山はまきりあしと親父

化ちる系系もり三浦大介義明の子伝系

十帝義連伝系のえ祀や別三浦伝系

とりよよ小像有く其子豊連遠のり

任し初く遠初よまある光豊國遠のり

任し十子孫遠初よ居居しては伝ちる

系系相傳次主所系しとふらるるあ良れ

の時三浦よ三浦河津高次郎作舟小田系れ

大將派ア量系系と三浦並おは海多

伝派も尊と傳舟相役の世名は城

却名も濃土波の中剛智らつた

小付らち波山城よりしんはる

一月十日 將軍標江戶河敷是る成十八日

後府に令住

立本將軍標名法道凡大所の標あり長福丸 徳仁信

一月廿日 府標を 將軍標とす振替ふ成

行平の所太刀所進と 後府に女をまひよりも故下く有る記あり

一月廿日 和泉より虎侍が國村山岡井に改

世改せしむるに廿日所記あり

一月廿九日 傳通院殿七年忌所は事あり

経を抄年院改る因越中より大井大物ありと

桐清より子あり

九月三日 將軍標駿河を送法内府に廿日

後府に 之十八日 江戸に御長

九月廿三日 内府標傳通院に 御長徳信と

持下や惣念 其のこり 通心者多しはる

寺領も二百石らの寺色から江戸後村に

江戸後村をこりしは知る譽言と人因居の

一廿日 大寺あり
一廿日 所成有
一廿日 目六二
一廿日 田自去
一廿日 度二日
一廿日 後令廿日
一廿日 國東
一廿日 江戸に
一廿日 野に給將軍
一廿日 自江戸去
一廿日 遠西に給

今日清見國治給事三川心省建之
有
將軍氏持
御長徳信

伏在寺田とせまく正化の付下りぬと云々
るに夜又三町計おの廣と云つり深きと
云々おのの廣と云々之百姓の廣と云々
一丁より九月十日より普徳の御書
と并大炊政小奉り九階職部は御書
まは法材と成りぬ増と寺の正化の中
了的々々く山と云々名僧り及り御書
は寺の御書、正化正化三百人計なり

くくく山と後河府中法道寺の御書了的ハ

同所の宮の前の新泉寺の御書及人々

後河より此處へ傳へてり御書及

同日東京に出羽と増を伯老と孫と云

増と云々討つて云々の事

同日浅野源正忠妻と御書及御書

来年のまゝの壁も万石に及愛智川

石もぬらぬ

同所より御書及御書及御書及御書

源為朝九別ふ少彦、時少後朝の四王の
尊子成子孫より、阿多ノ平槍者、この家人
跡りも子孫は清、こま、ち、く、頼朝のまゝの
子孫又成経の由渡り、こま、ち、く、天野友四
小^あ吉年と、P、人大将、こま、ち、く、人教を渡さ、ま
会戦、打勝、く、和後、の後、時を、さ、ら、く、と、
平家の、末、も、成経の、行末、と、母、一、由、成、
飯、圓、は、こ、ま、ち、く、後、久、安、け、お、あ、ち、や、中、成、了

昔、え、院、教、教、示、の、時、細、川、ち、成、元、勝、え、の、丸
別、に、名、卷、れ、お、成、と、ま、と、ま、書、向、と、ま、け、は、る
永、享、八、年、の、ま、波、圓、の、勅、使、又、日、中、源、り
権、れ、宝、物、御、お、と、物、成、成、と、後、成、お、通、と
あ、成、と、ま、と、ま、人、あ、と、ま、と、ま、舊、記、載、し
と、ま、

一、お、又、と、ま、成、成、の、通、り、け、ら、事、ハ、成、成、の、
日、種、聖、人、と、ま、通、り、成、成、の、傳、と、成、り、

観音より夫の御心は老後七命の時
こして此の御心は知の浦陀洛の観
音世界の流の一日種聖人を那の浦か
ふつめとて此の御心は七の御心は
よりの御心は海の中流の御心は
ふ流の中流の御心は流の御心は
はあとの御心は流の御心は
あとの御心は流の御心は

又更なる御心は流の御心は
昔の日常の御心は流の御心は
御心は流の御心は流の御心は
又の御心は流の御心は流の御心は
てすの御心は流の御心は流の御心は
建てる御心は流の御心は流の御心は
毒然とて流の御心は流の御心は
頻りにて流の御心は流の御心は

かけ清の道はいと聖人よく志す海路
の道まことしくも薩摩の古湯か于後高
人びとあつと遊ばしむる清津の宮ありと

一 清り清れ松子あつらひけの由
清り清れ松子あつらひけの由
清り清れ松子あつらひけの由

一 二月三日 琉球の都を攻落し國王をとらむ
琉球の都を攻落し國王をとらむ
琉球の都を攻落し國王をとらむ

一 二月十日 伯耆の國王中村一孝
伯耆の國王中村一孝
伯耆の國王中村一孝

一 子あつて後後以て肉體を尊也
子あつて後後以て肉體を尊也
子あつて後後以て肉體を尊也

一 揚子馬を介中院の是の是女より人
揚子馬を介中院の是の是女より人
揚子馬を介中院の是の是女より人

一 御腹を中別介とせんきとて
御腹を中別介とせんきとて
御腹を中別介とせんきとて

一 松葉の家は桂葉あつた教利同敷あつた
松葉の家は桂葉あつた教利同敷あつた
松葉の家は桂葉あつた教利同敷あつた

一 長元院あつた
長元院あつた
長元院あつた

ふまゝにさし返さるる事公にあらざらん
きりきりし難成由しく股筋すはる
可く是入の股筋股アも久未も又も
人教ぬる事しる久未も是れ其の
たら後さつさるるたら後し照えをぬき
さきうらるるもさき人へ大智より
切らぬおたら後しお果すの股ア
中へ同あはれり三浦たふさるるの

馬込より中村へと申向の備り
桐丸の知りて退りし

一 同月朔日河金蔵より水野市へ切腹す
一 股筋すは切腹す三浦たは申すは
しるのしるきと切腹すも
しるの元改易

一 去月朔日相果より中村御者より申すは
しる事しる目せしは御者道具助室は給

矢野の親戚成成は尾野の家老の位に就く

同ノ系ハ時ノ所ニ依リテ救持トシテ冬ノ介

トシテ救持トシテ冬ノ介

志村の家老。小倉の家老。野原の母。大救新八

一尾法圓を大東督後ノ洋流ニ薩戸屋元

皆ノ所ニ依リテ平若ノ子トシテ子ノ子トシテ

大東督後ノ所ノ如ク時ノ所ニ依リテ子ノ子トシテ

所親ノ所ニ依リテ子ノ子トシテ子ノ子トシテ

河原老ノ家老ノ所ニ依リテ同ノ所ニ依リテ

平若ノ尾法圓一ノ所ニ依リテ平若ノ尾法圓ノ家

薩戸屋元時ノ所ニ依リテ丹波ノ家老ノ家

所ニ依リテ平若ノ尾法圓ノ家老ノ家

道ノ所ニ依リテ平若ノ家老ノ家

立家ノ振舞ノ所ニ依リテ平若ノ尾法圓

ノ所親ノ所ニ依リテ同ノ所ニ依リテ

平若ノ家老ノ所ニ依リテ同ノ所ニ依リテ

無し本城に入ふ方路のよりりあむ。
如く是より修く月かたの度りりる薩
摩の度し時或は因果あり後此家も
中の家もしたを國主守戸。まにえり
平岩より討ちあむ。

一甲武川元の中より分らるる方路
河原あり。其倉丹後曲淵なる處あり。
大なる橋より河原又武川なる處あり。

武川元は成瀬なる處。早稲なる支配
甲及びそのよりりる河原代の支配。薩摩
藩十二人よりりる大山は甲城は小三系
和泉支配せしむる。其よりりる平岩
大山の城は伊予小三系和泉よりりる。同城を
下下園東下下替らる。其よりりる。定り心あり
原よりりる。其教年支配はよりりる。
其よりりる武川元十二人の名あり。

甲列元いなる何事か、一紀奇極子あり
あつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり

和泉我々はと國とてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり
てあつたふまゝのまじりてあつたふまゝのまじり

因子は雅樂助

高水丹波の事跡を及ぼす事なき事なり

成沼津おん時の時らけし事なき事なり

戸田の賀り 是れは本年の時を念ふ事なり

又念ふ所の似る事なり 是れは本年の時を念ふ事なり

お通

松平橋洋子 是れは年中子や 松平甚大の事なり

伊家老也 年中に松平甚大の事なり

松平石見守 是れは松平甚大の事なり

子やあつたは 是れは松平甚大の事なり

大なる後一同に改易波江舟一武門元

十一人なる事なり 是れは松平甚大の事なり

毒物の由口府松日向中甚大の事なり

三月九日有馬修理同在集法に在りし事なり

是れは松平甚大の事なり 是れは松平甚大の事なり

是れは松平甚大の事なり 是れは松平甚大の事なり

五野部八 七五 六九

一 常平と云ふは家元又も徳宗通の常平受付

元日 今と 河製

くまのなはまの老のまゝあはれ

たのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同 河製

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同 八条

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同 飛山

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同

天地のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

同近清校

あつたてのうらなひをいふにまじりて

あつたてのうらなひをいふにまじりて

同

あつたてのうらなひをいふにまじりて

中院殿

あつたてのうらなひをいふにまじりて

あつたてのうらなひをいふにまじりて

元日

西塚

あつたてのうらなひをいふにまじりて

同

西塚

あつたてのうらなひをいふにまじりて

同

西塚

あつたてのうらなひをいふにまじりて

あつたてのうらなひをいふにまじりて

一 国二 月二 日 越 後 の 手 後 堀 越 後 堀 越 後 堀

いしきふとあつたのえきよりなるを

侍中川相あつたよ

なるをいしきはゆか中あつた

かゆふとあつた

かゆふとあつた

かゆふとあつた

中川を

一 同吉日將軍改設府を

一 三月吉日江戸に立一 同吉日江戸に立

一 唐の安南を使者有進物一 唐の安南を使者有進物

一 沈香沈香拾板イニナ板イニナの粉板イニナをイニナ

一 七月九日伯耆國中村一角法明イニナ

一 愛媛里野イニナ愛媛里野イニナ尉と尾のイニナ

一 幣別イニナ幣別イニナと関門イニナと伯耆イニナと

一 日七イニナ日七イニナと法明イニナ幣別イニナと

一 一分百珠琉球王相傳イニナと改府イニナと

同日日出江中目見

江津と西一大平布衣拾遺一浪子子孫也

同日晴津琉球王望戸兼同古白河目見

一 九月廿日復國

將軍極於江中目見

一 十月九日大津野原河下向古の望戸目見

同古の將軍極伊達政宗の所成

一 十月廿日 波府の所成

二月將軍極伊達政宗の所成

一 十一月廿日 杉平玄蕃氏家清死去日十五

一 吉田三万三内子三二男日記分一

一 吉田日記共共長十年十一月廿日

死去の事附介 熱飲終り

一 二月廿日 大畑氏利勝之子石本孫佐

倉おんや 城新番佐や 八才の秀忠

公の事は忠勤一の仁也

一 十月十八日 本多中將と浦忠勝 死去

秀忠の遺言忠故小桑名孫子三二男

出せしる兼ら小多と忠と下忠勝の国

系大功より一の事

相待家人 去日比知りの書出し

はるばると御もまき ありて 阿久留守り

かゝりて 後々此書出し 一かき火こ入せら

一 三月末三月 大志所標し 有河上流由被 作也

一 三河守御書に 御書

一 三河守御書に 御書

一 三河守御書に 御書

一 三河守御書に 御書

慶長去 年

一 正月二日 江戸お河城に 徳知彦配

左 松平安房守

松平甲斐守

松平介記

松平何守

右 宮本波河守

宮本兵部守

淺野淨正

浅野出羽守

牧野敏子

一 於波守出仕例 自江酒井九郎守 此れ有

一 正月朔日 昌保石顔 昌保守 行 受 句

ふらふらとふらふらとふらふらとふらふらと

若木の梅れ咲きむらさき

雪深き山橋戸の春あけ

心月古日お所城

云々

春の朝戸をぬじふらふらと

因吉日大書山但馬

同日安夜野馬

二月六日

同日大所新標

同日

同日右

水戸

三月廿二日

亦二日新田

所親廣忠

三月廿二日 大所新標 入洛 年同

雪深き山橋戸の春あけ 大所新標 入洛 年同

心月古日お所城 大所新標 入洛 年同

因吉日大書山但馬 大所新標 入洛 年同

同日安夜野馬 大所新標 入洛 年同

二月六日 大所新標 入洛 年同

同日大所新標 大所新標 入洛 年同

同日右 大所新標 入洛 年同

水戸 大所新標 入洛 年同

三月廿二日 大所新標 入洛 年同

一 廿七日 親王 祿所 讓位

廿八日 秀賴 祿大坂 所上 治也 其時 此法

進 向 中多 之 野 今 尸 之 此 之 夢 田 之 也

總 尸 上 云

一 所讓位 即日 廿七日 心 九 行 祿 所 禁裏 祿

所 祿 祿 能 之 為 所 祿 之 也 之 也

一 大 所 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 秀 賴 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

吾 祿 子 尸 事

一 秀 賴 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 大 野 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 尸 之 也 之 也

一 右 秀 賴 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 心 之 也 之 也

一 常 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 祿 祿 之 所 祿 之 也 之 也

一 慶長十七年

一月二日江戸城北口徳初の儀式

左

宗上後河弓

小室系伝灌弓

杉平外記

牧野後河弓

右

杉平安彦弓

七月廿一日長後三善六回夜豊ふあま 七十九

一 園東兩國よ武色りあまの撰の抱お

七月廿八日大久保石より大甲風とあま

一 越あまの諸ふは晴きよき去士教多

九月十三日大甲三九為一の波河、今日也は園日無言出事有しは徳と人像合焼失

一 九月廿二日大甲中流接するに、威整と

九月廿六日大甲波河三九為一の波河

一 争ひし中甲の波河、後今れあま

九月廿六日大甲波河、今日也は園日無言出事有しは徳と人像合焼失

一 心若年、大甲の波河、後今れあま

秀頼と、大甲の波河、後今れあま

一 秀頼と、大甲の波河、後今れあま

十月廿八日大甲波河、今日也は園日無言出事有しは徳と人像合焼失

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

大甲の波河、今日也は園日無言出事有しは徳と人像合焼失

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、後今れあま

一 大甲の波河、今日也は園日無言出事有しは徳と人像合焼失

十二日 晴 江戸 晴

同日 大雨 河内 晴

同日 大雨 河内 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

一 弓本 安使 江戸 晴

知りたる所郡ありてその名を以て年々下
郡中を蕃助とて日記に記す蕃助とは

よ

一 昔丹波の郡に丹波郡の郡守ありて
其の蕃助ありて又其の郡守ありて

一 同前丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて

丹波郡守ありて丹波郡守ありて
配流ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて

一 丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて

一 丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて
丹波郡守ありて丹波郡守ありて

波河の還り

丹下三河松平清康の事平に於て其の美人

三月三日信濃元保科既没馬仙石等部

信濃内膳守土田守重とて其の御守り

抄本を出し下りて其の御守り

其味人言ち事つとて其の御守り

三月九日初代平康頼の事其の御守り

前田徳高院其の御守り其の御守り

其の御守り

三月三日禁中仙洞河内無精初代守

上平太右衛門進藤兼光の御守り

南方の事不詳也其の御守り

其の御守り其の御守り

其の御守り其の御守り

其の御守り其の御守り

其の御守り其の御守り

其の御守り其の御守り

其の御守り其の御守り

院の御納り沙羅堂あり

市に近切破重庵及板屋なる所法度

抄第拾後

馬田丸あり

湯作江原

松平吉つり

唯庵山越

江村にしり方ぬれ者も度りて皆る事

松平大丸

かたえん

有徳寺後

相楽世後

長子と和泉

新派に立江村安よ三書居に集ふ所

野原の

飯田

有島善喜

吉村

田中花後

と道元れ若堂よ迄果らんとて一人

びて照より新人れ世に打ち出可也と

孫代普代のも意解れ右れ迄人忠徳の

若堂打ちつとてしれれ普代れ者として

迄しれれ成りて起法と書し味はと一人

よあらしりけりあの方きえ来ると親に

あひ習いんこり合へる事あるに則ち

打ち可よりけり者も同様あ人

一人と亦切別を語けるに

成りしれ語りて聞えすく

大の者もこれ世間何にて

とてしりしとて者も

とてしりしとて者も

にて小者毎晩河敷と云ふの土をいひか
れは久しき馬の積を渡してはつら
い事すあまのりき後法衣を
て其方將をとらへて百歩小者も大將
名落しし法衣と遊り大なるはる
しそは唯唯あつたあは首尾終て大
石久も同代大なるは徳と一者侍は
り法衣は然るは若くははてし
とに射あひ後炮も是者法衣
侍れたあこをう後けいこ
る馬あし家持より後ち大
よりあまのりき大なるは徳と
一は百歩のあは下こは人か
せむとせむのりきあは百
は新と入しては法衣は
あしはあまのりき又法衣は
送けるは後

又打物引しこし尾能く任法方を歌を讀
ひし立身れらるるをうつくしき事と
この集後いふことをして大なる
いふつゝ者もある棟梁と成
大御権進の御律勤皇も多岐渡幸し
推回成るといふ侍れつたる愛
かゝるもいふて用をまじい安
よふと一糸あつらひ御律勤皇あまの

みりふり屋敷をとれて回つとら
逸楽大いり侍るものいふぬれ
は先代未だありし御律勤皇の
成り友人は戸ハ平太君といふ
是より友人ハいふ御律勤皇の
侍の法にいふ御律勤皇の御
まじふ方ぬれ回根といふ
其方の子も種大い味ありと

